

第1学年 道徳指導案

日 時	平成18年10月27日(金) 第3校時
生 徒	雫石町立雫石中学校 1年1組 (男子17名、女子18名、計35名)
場 所	1年1組教室
指導者	教諭 千葉 美紀

1. 主題名 生命の尊重(3 -)

2. 資料名 「僕のスーパーヒーロー」

3. 主題設定の理由

中学生の時期には、自己の生命に対するありがたみを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに、心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動をして、社会的な問題となることもある。飲酒・喫煙・薬物乱用もその一つである。

生命の尊厳に気づかせ、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身につけさせることが、飲酒・喫煙・薬物乱用を防止することにつながると考え、この主題を設定した。

4. ねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

5. 生徒の実態

明るく、積極的な生徒が多い。好奇心旺盛で、いろいろなことに興味関心をもち、活動的である。

反面、好奇心や興味関心の赴くままに行動して失敗することも多い。初めての体育祭に参加したいがために、体調が悪いまま登校して悪化させるなど、健康管理の甘さも見られる。体の大きい生徒が小柄な生徒に対して、力の加減ができないまま乱暴な行動をしてしまうこともある。安全に対する意識も未成熟なところがある。

34人中17人が核家族、祖父母と同居している生徒が17人(内、曾祖父母も同居は5人)である。生命のかけがえのなさに心を揺り動かされる経験に、個人差が大きいと思われる。

6. 資料について

『ぼくのおばあちゃん(なかむらみつる著)』から3場面を抜粋。『おばあちゃん』の『ぼく』に対する言葉から、『自分という存在のかけがえのなさ』を感じ取ることができる。

7. 展開

過程	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
導入 (10分)	1. 本時の課題を確認する。	・おばあちゃんの「どんなに悪いことをしてもおこったりしないから()。」の()内に入る言葉を考えることで、本時の課題を確認する。	・クイズ形式で紹介し、明るい雰囲気をつくる。
展開 (30分)	『おばあちゃん』の言葉を聞いて、『ぼく』はどんな気持ちになっただろうか		
	2. 『おばあちゃん』と『ぼく』とのエピソードを紹介する。	・『おばあちゃん』と『ぼく』の間に流れるあたたかい関係を知る。	・『傷を負ったおばあちゃんの手』のイラスト
	3. 『おばあちゃん』が意識不明になっているにもかかわらず、『ぼく』がたくさん話しかけるようにしたのはなぜだろうか？	・反応はなくても聞こえているかもしれないから ・もし聞こえていたら、少しでも寂しくなくなると思ったから。	・実際の『おばあちゃんの言葉』を紹介する。
	4. 『おばあちゃん』が亡くなる時の言葉を聞いて、『ぼく』はどんな気持ちになっただろうか	・『おばあちゃん』に声をかけ続けてよかったな。 ・もう、『おばあちゃん』に会えなくなってしまうのだな。 ・『おばあちゃん』にとって『ぼく』はとても大切な存在だったのだな。	・自宅で寝たきりになっている時に、天井に写真を貼ったエピソードにもふれる。
	5. 「どんなに悪いことをしても怒ったりしないから、死ぬ順番だけは間違えないでね」という『おばあちゃん』の言葉を聞いて、ぼくはどんな気持ちになっただろうか	・『おばあちゃん』にもらった命を、大切に受け継いでいこう。 ・どんなにつらいことがあっても、しっかりと生きていこう。	・資料1 (亡くなる時の言葉)
終末 (10分)	6. 本時のまとめ 7. 説話 『おばあちゃん』が残してくれたビデオの言葉を紹介する。	・今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめる。 ・『おばあちゃん』の気持ちを考えながら、聞く。	・資料2

8. 評価

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を大切にしようとする意欲をもつことができたか。